

社会からゆるぎない信頼を得ている地球貢献企業になるために



「100周年」のその先を考える

横浜ゴムは、2017年に創立から100周年を迎えます。当社では、この大きな節目に向けて、中期経営計画「グランドデザイン100(GD100)」を2006年にスタート。2017年度までに「企業価値・市場地位において、独自の存在感を持つグローバルカンパニー」となることを目指し、さまざまな取り組みを進めてまいりました。

しかし、その2017年もまた、私たちににとってはゴールではなく、一つの通過地点にすぎません。さらにその先、例えば創立150周年を迎える2067年に、自分たちがどんな企業でありたいのか、どんな企業であるべきなのか、そしてそのためには何をすべきなのか。より長期的な視点を持って考えていく必要があると感じています。

一人一人が基本理念を自分の言葉で解釈することが大切

そのときに、原点となるのはやはり「創業の精神」や「企業理念」です。当社が基本理念として掲げているのは、「心と技術をこめたモノづくりにより、幸せと豊かさに貢献する」ということ。では、「心と技術をこめたモノづくりとは何か」、「幸せと豊かさとは何か」、「それらに貢献するとはどういうことなのか」。従業員一人一人が基本理念をもう一度見つめ直し、自分の言葉に解釈し直す。そして、理念の実現のために、自らの意思で考え、行動していかなければなりません。

その積み重ねこそが、会社の「品格」ともいうべきものをつくっていくのだと思います。そして、企業が社会の中で今後も存続していくためには、そうした「品格」が強く求められるのではないのでしょうか。

その意味で、従業員の間に会社の基本理念についての理

解を広げていくことは、社長としての私の重要な役割でもあります。その認識の下、これからも、生産や営業の現場を積極的に訪問し、基本理念について「私はこう思うけれど、皆さんはどう解釈しますか」という問いかけを続けていきたいと思っています。

「快」が人を動かす

従業員と向き合うときに、私が大事にしてきたのは「快」ということです。人が行動を起こすとき、そこには必ず「快」、心地よさがあります。例えば買い物一つとっても、それを買うことによって、自分がいい気持ちになる、楽しくなる、そうした「快」があるからこそ、購買行動が成り立つ。逆に言えば、何らかの行動を起こさない、あるいは何かから逃げようとするのは、そこに「不快」があるからなのです。

中でも、組織の中で得られる最も大きな「快」は、自分の存在感を認められる、評価される、そして自己実現できるということ。そうした「快」を一つでも多く生み出すことが、人のモチベーションを引き出し、現場を活性化していくのです。2006年にスタートさせた社長表彰制度の「環境貢献賞」も、そんな考えの下で生まれたもの。従業員とのコミュニケーションを密にすることが、何より重要だと考えています。

ただし、何を「快」と思い、「不快」と思うかは、もちろんそれぞれの人によって異なります。そこで重要なのが、「相手の気持ちを思いやること」です。常に相手の立場に立って考え、反応を確認しながら行動することで、より多くの「快」を生み出し、「不快」を「快」に変えていく。それが組織におけるマネジメントの役割なのだと思います。

ステークホルダーに「快」を提供するそれがCSR

この考え方は、CSRにもそのまま通じるものです。企業が、周囲のステークホルダーに与える「快」を増やしていくための取り組み。それこそがCSR活動であるといえるのではないのでしょうか。

そして、その基本となるのは、「自分たちだけが利益を得ようとする」ということ。すべての取引先やお客さま、そして社会全体に対して公平さを持ち、Win-Winの関係を心掛けていくことが、より多くの「快」を周囲に与えることにつながるのだと思います。

こうした観点から考えれば、重要なCSR活動の一つである環境への取り組みは、未来を生きる子どもたちの世代に

「快」を与える活動であるともいえます。当社は、1998年に乗用車用低燃費タイヤを発売したのを皮切りに、環境貢献型商品の開発に積極的に取り組んできました。2017年までには、すべての商品を環境貢献型にすることを目標として掲げています。

さらに、そうした商品の開発・提供だけでなく、それを生産する現場における環境負荷を低減するための取り組みも必要です。将来世代の一つでも多くの「快」を手渡すためには、商品そのものと生産過程、その両面から技術開発に取り組んでいかなければなりません。

また同時に、事業活動の中で、騒音や汚染物質、環境負荷などの「不快」を生み出してしまった場合には、早急に事態を把握し、解決に取り組む必要があります。生み出してしまった「不快」を将来に残さないために、可能な限り迅速に回収する。それもまた、私たち企業に課せられた責任だと考えています。

経験の積み重ねが強い心をつくる

近年、当社はアジア・アメリカなど海外にも数多くの生産・販売拠点を設け、グローバルな事業展開を進めています。事業に携わる人材も、急速に多様化が進んできました。

しかし、国が違い、習慣が違っても、人が感じる「快」と「不快」の基本は同じ。CSRについても、海外だからといってまったく違うことをするのはではなく、まずは基本理念をはじめとする姿勢や、これまで日本で取り組んできたことを広げていく、伝えていくことに力を入れたいと考えています。

その中で、日本、海外を問わず従業員に求めたいのは、「やりたいことにどんどんチャレンジする」ということ。失敗も含めた多くの経験を積むことで、人は強くなっていくもの。私自身も、若いころから積み重ねてきたさまざまな経験が、今の自分をつくっていると感じています。

そうして強い心を持って、基本理念という原点を忘れずにさまざまなことに取り組んでいく。一人一人のその姿勢が、横浜ゴムの今後を支えていくのだと確信しています。

本レポートでは、「社会からゆるぎない信頼を得ている地球貢献企業」を目指し、当社が展開するさまざまな取り組みについてご報告しています。ぜひご一読いただき、忌憚のないご意見をお寄せください。

代表取締役社長 南雲忠信